貿易、投資、政府間プロジェクト

Dr Alexander Ressos, TEP
Attorney-at-Law (Switzerland and Germany),
Solicitor (England & Wales and Hong Kong)
Of Counsel, KGP Legal LLC
alexander.ressos@kgplegal.com.sg
www.ressos.com.sg

経済関係の規模

1990年以降、貿易は急速に拡大しました。二国間貿易額は1998年の81.54億米ドルから2000年には108.21億米ドルに増加しました。[1] 2009年には751億シンガポールドルに達しています。中国は2013年以降、シンガポールにとって最大の物品貿易相手国であり、2023年にはシンガポールの物品貿易総額の13.9%を占めました。同じ期間、シンガポールは投資フローで見て中国にとって最大の外国投資国であり、他方、中国は2007年以降、シンガポールにとって最大の投資先となっています。[2]

これらの数字は慎重に読む必要があります。シンガポールからの投資として記録されているものの相当部分は、他国の投資家がシンガポールの持株会社を通じて送り込む資本です。その中には、シンガポールを地域のトレジャリー・センターとして利用する多国籍企業グループや、多くの国から資本を集めるファンドが含まれます。したがって、シンガポールが中国にとって最大の外国投資国であるという事実は、シンガポール居住者自身の

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

富と同じくらい、金融仲介者としての同国の役割を反映しています。逆方向についても同じことがいえます。中国の東南アジアへの投資は、しばしばシンガポールの事業体を経由するからです。

自由貿易協定とそのアップグレード

経済関係の法的枠組みは、2009年1月1日に発効した中国・シンガポール自由貿易協定（China-Singapore Free Trade Agreement）に基づいています。そのアップグレード交渉は、2015年の習近平（Xi Jinping）国家主席の国賓訪問を受けて開始され、2018年11月に妥結しました。最初のアップグレード議定書は、同月、李克強（Li Keqiang）首相の公式訪問の際に署名されました。[3]

2023年12月に署名された追加アップグレード議定書は、2024年12月31日に発効しました。これにより同協定は、サービスと投資に関する約束がネガティブリスト方式に従う、中国にとってアジアの国との初めての自由貿易協定となりました。ネガティブリスト方式とは、明示的に除外されない限りすべての分野が開放される方式です。シンガポールの投資家は、建設、小売・卸売、建築・都市計画、技術試験、リースなど22の分野で、もはや外資出資比率の上限の対象となりません。[4] 金融機関にとって、この議定書の意義は、直接的な譲許よりも、それが発するシグナルにあります。シンガポールは、中国がこの条約技術を用いた最初のアジアのパートナーでした。このことは、中国の対外開放の試験場としての同市の役割を裏付けています。

蘇州、天津、重慶

両国関係の最も際立った特徴は、政府間プロジェクトです。中国・シンガポール蘇州工業園区は1994年2月26日、李嵐清（Li Lanqing）副総理とリー・クアンユー上級相が共同開発に関する協定に署名したことにより発足しました。工業園区の面積は278平方キロメートルで、そのうち80平方

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

キロメートルが中国・シンガポール協力区域です。[5] その構想は、シンガポールの「ソフトウェア」、すなわちジュロン工業団地から得られた計画、行政および投資誘致の手法を、中国の都市に移転することでした。

当初の数年間は困難なものでした。発足時にはシンガポールの政府系企業が開発会社の65%を保有していましたが、蘇州の当局は独自の競合する工業区を推進していました。1999年、シンガポールは、地元政府が工業園区の成功に直接の利害を持つよう、持分を35%に引き下げました。工業園区は2001年の最初の10か月間に、380万米ドルの初めての利益を計上しました。2019年までに、その経済生産高は2,740億人民元に達しました。[6] シンガポールが後のプロジェクトにも生かした教訓は、制度的知見の移転は、地元の利害がそれと一致して初めて機能するということでした。

2番目のプロジェクトは中新天津生態城（Sino-Singapore Tianjin Eco-City）で、その枠組み協定は2007年11月18日にリー・シェンロン首相と温家宝（Wen Jiabao）首相によって署名されました。面積は30平方キロメートルで、2020年までに35万人の居住者を見込んで計画されました。2019年の人口は約10万人に達しましたが、このことは、エコシティの計画が産業開発よりも緩やかに進んだことを示しています。[7]

3番目のプロジェクトである中国・シンガポール（重慶）戦略的相互接続モデルプロジェクト（China-Singapore (Chongqing) Demonstration Initiative on Strategic Connectivity）は2015年に開始され、金融、航空、物流、情報技術に重点を置いています。[8] 蘇州や天津とは異なり、このプロジェクトには固定された用地がありません。その目的は、中国西部を東南アジアおよびシンガポールの資本市場と結ぶことにあります。最も目に見える成果は、国際陸海貿易新通路（New International Land-Sea Trade Corridor）です。この通路は、重慶から鉄道で広西チワン族自治区の北部湾の欽州などの港に至り、そこから海路でシンガポールやその先へと続いています。2019年9月までに、この通路は90か国の190の港と結ばれました。[9]

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

金融協力と人民元

政府間プロジェクトは、金融協力の手段となりました。中国人民銀行は2013年2月8日、中国工商銀行シンガポール支店を人民元クリアリング銀行に指定しました。[10] 同年初めにシンガポール金融管理局（Monetary Authority of Singapore、MAS）と中国人民銀行が二国間通貨スワップ協定を拡充したことを受け、2013年5月にシンガポールで人民元クリアリング業務が開始されました。2013年10月22日の合同委員会において、中国は人民元適格外国機関投資家（RMB Qualified Foreign Institutional Investor）制度を500億人民元の投資枠でシンガポールに拡大しました。両国はまた、人民元とシンガポールドルの直接取引、そして蘇州および天津との越境人民元フローに関する検討についても合意しました。[11]

2年後の2015年11月9日、投資枠は倍増されて1,000億人民元となりました。重慶にも蘇州や天津と同じ越境人民元措置が認められ、シンガポールの銀行は重慶の企業に人民元建てで融資できるようになりました。また、重慶の企業はシンガポールで人民元建て債券を発行し、その手取金を本国に送金できるようになりました。MASと中国証券監督管理委員会は、定期的な高官級対話と、「一帯一路（One-Belt-One-Road）」構想を支援する商品を含む共同商品の検討について合意しました。[12] これらの措置により、シンガポールは香港以外で主要なオフショア人民元センターの一つとなりました。その役割は、中国との貿易と、中国の銀行の存在に支えられています。

注

1. Wikipedia, “China–Singapore relations”（2026年11月最終閲覧）：貿易額は1998年81.54億米ドル、1999年85.6億米ドル、2000年108.21億米ドル。2009年は751億シンガポールドル。 ↩
2. Rajah & Tann Singapore, “Commencement of China-Singapore FTA Further Upgrade Protocol w.e.f. 31 Dec 2024”、2025年1月9日

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

（sg.rajahtannasia.com）：中国は2013年以降シンガポールにとって最大の物品貿易相手国であり、2023年には物品貿易総額の13.9%を占める。シンガポールは2013年以降、投資フローで見て中国にとって最大の外国投資国。中国は2007年以降シンガポールにとって最大の投資先。Ministry of Foreign Affairs of Singapore、国別ページ“People's Republic of China”（2026年11月最終閲覧）：中国は2013年以降最大の貿易相手国。 ↩

3. Ministry of Foreign Affairs of Singapore、国別ページ“People's Republic of China”（2026年11月最終閲覧）：CSFTAは2009年1月1日発効。アップグレード交渉は2015年の習主席の国賓訪問を受けて開始され、2018年11月に妥結。アップグレード議定書は2018年11月の李克強首相の公式訪問の際に署名。 ↩

4. Rajah & Tann Singapore, “Commencement of China-Singapore FTA Further Upgrade Protocol”、2025年1月9日：議定書は2023年12月署名、2024年12月31日発効。CSFTAは“China's first FTA with an Asian country where commitments for services and investment are done through the negative list approach”となる。外国投資家に閉ざされた産業のネガティブリストが短縮。建設、小売・卸売、建築・都市計画、技術試験、賃貸・リースを含む22分野で外資出資比率の上限を撤廃。 ↩

5. Wikipedia, “Suzhou Industrial Park”（2026年11月最終閲覧）：1994年2月26日、李嵐清副総理とリー・クアンユーによる共同開発協定の署名をもって発足。総面積278km²、協力区域80km²。 ↩

6. Wikipedia, “Suzhou Industrial Park”（2026年11月最終閲覧）：当初の持株比率はシンガポール側65%、中国の国有企業35%。シンガポールは1999年に持分を35%に引き下げ。2001年の最初の10か月間に380万米ドルの初の利益。2019年のGDPは2,740億人民元、税収は370億人民元。 ↩

7. Wikipedia, “Sino-Singapore Tianjin Eco-city”（2026年11月最終閲覧）：枠組み協定は2007年11月18日、リー・シェンロンと温家宝により署

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

名。面積30km²。2020年までに35万人の居住者を目標。China Dailyによれば、2019年4月の人口は約10万人。 ↩

8. China-Singapore (Chongqing) Demonstration Initiative on Strategic Connectivity。2015年11月の習近平国家主席のシンガポール国賓訪問の際に開始され、4つの重点分野（金融サービス、航空、運輸・物流、情報通信技術）を有する。 ↩

9. Wikipedia, “New International Land-Sea Trade Corridor”（2026年11月最終閲覧）：重慶から欽州などの北部湾の港に至る鉄道路線と、その先の海上輸送。シンガポールは、中国・シンガポール（重慶）戦略的相互接続モデルプロジェクトの政府間枠組みのもとでの共同パートナーである。新華社によれば、2019年9月時点で90か国の190の港と結ばれている。 ↩

10. Wikipedia, “Internationalization of the renminbi”（2026年11月最終閲覧）：“Singapore followed with the designation of ICBC as a clearing bank in 2013”。クリアリング銀行指定の一覧表：中国工商銀行シンガポール支店、2013年2月8日。 ↩

11. Monetary Authority of Singapore, “New Initiatives to Strengthen China-Singapore Financial Cooperation”、メディアリリース、2013年10月22日：RQFII制度を総枠500億人民元でシンガポールに拡大。中国人民元とシンガポールドルの直接取引。拡充された二国間スワップ協定は“paved the way for the launch of RMB clearing functions in Singapore in May this year”。蘇州工業園区および天津生態城との越境人民元フローに関する新たな措置を検討。 ↩

12. Monetary Authority of Singapore, “Cross-border RMB Flows and Capital Market Connectivity between China and Singapore to Strengthen”、メディアリリース、2015年11月9日：蘇州と天津に適用されていた措置を重慶に拡大。シンガポールの銀行は重慶の企業に人民元建てで融資でき、重慶の企業はシンガポールで人民元建て債券を発行して“fully repatriate the proceeds”ことができる。RQFII枠を500億人民元から1,000

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

億人民元に倍増。2013年3月に署名されたスワップ取決めを更新予定。MASとCSRCの対話。一帯一路構想の支援を含む共同商品。 ↩

Disclaimer

This article is provided for general information only. It is based on publicly available sources as at its date of publication. These sources have not been independently verified against licences, regulatory registers or the records of the entities concerned. It is not legal, tax, financial or investment advice. Nor is it a recommendation to invest in, transact with or use the services of any entity mentioned. Law and regulation change frequently, so the content may be incomplete or outdated. To the fullest extent permitted by law, Dr Alexander Ressos and the publisher of SingaporeIQ exclude all liability for loss or damage arising from the use of or reliance on this article. Readers should obtain advice on their specific circumstances before acting or refraining from action.

Names and trademarks of the entities discussed belong to their owners and are used for identification only. Their mention implies no endorsement, affiliation or allegation of wrongdoing. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. Corrections and updates: contact@ressos.com.

© 2026 Dr Alexander Ressos. This article may be quoted with attribution to SingaporeIQ (SingaporeIQ.com). Reproduction in full and any commercial use require prior written consent. The Legal Terms at https://singaporeiq.com/legal-terms apply.

Author contact: Dr Alexander Ressos, TEP · contact@ressos.com

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.